

今年の冬、同じ寒冷地にもかかわらず、なぜ東北ではなく北海道でコロナが流行したのか——これが今回のテーマである。筆者は6年間札幌で学生生活を送った。当然大阪とは比べ物にならない厳しい冬も過ごした。特筆すべきは暖房設備である。公共施設は集中暖房、個人宅は灯油または天然ガス暖房。各戸に煙突が備わり、換気不要だ。二重窓なので気密性もいい。筆者はこの暖房システムが裏目に出て、冬場にコロナ蔓延の契機になった

と考えた。そこで道北の基幹病院で呼吸器内科医として勤務している同級生に話を聞いてみた。

「やっぱ雪まつりでないの？ 春節の時なまら中国から観光客来たっしょ。堀井も学生の時、雪像作ってたから知ってると思うけど、結構しばれるからね。外でずっと歩いてるの大変だし、テントとかプレハブの休憩所で暖取る人、結構多かったんじゃない？」

北海道は特に中華圏からの観光客が多く、



医界サロン

北海道でなぜコロナ？

広報委員会副委員長 堀井 孝容

東北とでは比較にならない。彼は春節の観光客からの感染が主な原因であり、暖房設備の違いについては大きな理由とはならないとの解釈を示した。そういえば筆者にも心当たりがある。昨年夏、富良野の国道沿いにある土産物屋さんに入ってみると、併設の食堂では200人以上の中国人団体客がバイキング形式での食事の真最中だった。狭い空間にこもった空気、そして凄まじい喧騒。コロナにとっては絶好の媒介の場だ。特に冬場、窓を閉め切った室内はさぞ空気が淀んでいたことだろう。

未曾有の世界的感染症流行はほぼ100年ぶりだと言われている。しかし100年前は船の時代である。世界を移動する人間の数も、地球の総人口も、今と比べれば圧倒的に少なかった。そして現在。航空機の発達により、人間はあたかもバスにでも乗るように、気軽に、そして大勢、地球上を飛び回るようにな

った。北海道はコロナ流行の初期において、特にその矢面に立たされたのである。今回の世界的流行は、人類が経験したことのないスピードで広まった初めての感染症として歴史に記憶されるだろう。

最後に札幌市内の病院で働いている同級の女史から聞いた話を紹介したいと思う。

「道内でも札幌ナンバーで他の地方に行ったら嫌がられるって聞いたよ。十勝で最初に感染した人、すごい嫌がらせを受けて、いつの間にかどこかへ消えたっていう話だよ。ウイルスも怖いけど、人間ももっと怖いよね」

人類は自由な移動とともに、瞬時の情報伝達手段も手に入れた。100年前との違いは、診断治療の方針を世界規模で同時に人類が共有できることである。だが同時に、他人を精神的に追い詰める手段としても格段の発達を遂げた。この諸刃の剣が人間の良心に従って使われることを願ってやまない。